

# 生涯教育月間

2016  
秋冬  
季刊 No.112



- 創立40周年記念特別企画「瀬戸内の美術館を訪ねて」他 ..... 2  
「偉人のふるさとを訪ねて（松代編）」 ..... 4
- プロフィール・インタビュー  
税理士  
柴田 美千代さん ..... 12



2016年5月19日(木)~21日(土)

創立40周年特別企画

# 瀬戸内の美術館を訪ねて—高松・直島・倉敷

北野財団創立40周年を記念して行われた事業のひとつとして、美術館をめぐる研修会「美術鑑賞」が5月19日から21日の3日間にわたって行われました。高松、直島、倉敷で、合わせて6つの美術館と2つのエリアを訪れました。

- イサム・ノグチ庭園美術館
- 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
- ベネッセハウス ミュージアム
- 地中美術館
- 李禹煥美術館
- 大原美術館

- ◇ 家プロジェクト
- ◇ 倉敷美観地区



草間彌生「赤かぼちゃ」2006年 直島・宮浦港緑地

研修初日、四国は高松のイサム・ノグチ庭園美術館へ。20世紀を代表する彫刻家イサム・ノグチはおよそ20年の間、この地にアトリエを構えて制作に打ち込んだ。美術館は150点余りの彫刻作品と自ら選んで移築した展示蔵や住居、彫刻庭園が、ひとつの大きな「環境彫刻」の様ななしている。

続いて訪れたのは、猪熊弦一郎現代美術館。全国でも類をみない「駅前美術館」としても知られるが、画家猪熊弦一郎より寄贈をうけた2万点の作品をコレクションの核として展示している。かつての三越の包装紙を手掛けたのが猪熊であることを知る人は少ないのでは？

2日目は船で直島へわたる。国内外の現代美術愛好家から絶大な人気を集めているこの島には、ベネッセハウス ミュージアム、地中美術館、李禹煥美術館といった、見どころ満載の美術館があり、また、古い家屋を改修し空間そのものを作品化した「家プロジェクト」も直島

を語るうえで外せないスポットとなっている。開館時間に合わせて渡り、最終便までの1日を最大限に使い、分刻みのスケジュールで島内を回った。

最終日は倉敷大原美術館へ。美観地区も散策しながらの作品鑑賞。エルグレコ、モネ、マティスなどの優品を心行くまで堪能し、工芸館では民藝運動にかかわる作家たちの作品をも愉しんだ。

2泊3日、古代オリエント美術から、西洋美術、日本古美術、現代美術と日本のアートシーンを見尽くしたかのような研修となった。



宿泊ホテルから美しい瀬戸内海を一望できる



イサム・ノグチ庭園美術館にて



猪熊弦一郎現代美術館



ノグチが滞在した住居（イサム家）



歴史を感じさせる佇まいの大原美術館エントランス



2016年9月28日(水)

# 谷中・根岸の美術館をたずねて

美術研究家沼辺信一さんを講師にお迎えし、谷中・根岸界隈の3つの美術館を訪れました。下町風情とアートをおおいに楽しむ秋の一日となりました。

- 台東区立書道博物館
- 台東区立朝倉彫塑館
- 東京藝術大学美術館

明治から昭和にかけて活躍した、洋画家・書家中村不折と、彫刻家の朝倉文夫の足跡を訪ねました。書道博物館では、中村不折がその半生40年あまりに蒐集した中国・日本の書道史上重要なコレクションを鑑賞しました。朝倉彫塑館は、東洋のロダンと呼ばれた彫刻界の巨匠朝倉文夫が7年の歳月をかけて、設計から細部の意匠に至るまでこだわり抜いた、自宅兼アトリエであった芸術空間に身をおきました。東京藝術大学美術館では、明治時代の「超絶技巧」な工芸品を堪能しました。

帰途のバスの中で沼辺先生より次にお話いただきました。

今回の美術研修は3本立てでした。明治時代までの日本には、いわゆる「彫刻」は存在しませんでした。床の間の置物的な工芸品として精密で手のこんだもの、「超絶技巧」なものが作られていました。これらの名品を東京藝術大学美術館で鑑賞しました。そして明治時代



朝倉彫塑館エントランスにて

外国からもたらされた「彫刻」がその後、日本でどう花開いていったかは、朝倉彫塑館でみることができました。同じく明治時代に本格的なヨーロッパの油絵を日本に持ち帰った中村不折のもう一つの仕事、「書」の研究を書道博物館で見ました。

東京にはたくさんの美術館があり、展覧会を見に行くことはあっても、美術館そのものを見に行くことはあまりないでしょう。書道博物館、朝倉彫塑館は美術館自体がとても魅力的でした。いつでも行ける場所にありながら、案外行ったことのない方が多かったのではないのでしょうか。いわば穴場的なスポットです。今回はバスを使用しましたが、いずれの美術館も徒歩で回ることが可能です。天気の良い日には是非また散策してみてください。



書道博物館中庭にて沼辺先生と参加者

朝倉彫塑館外観

手入れの行き届いた草木、そして下界をみわたすように彫刻が置かれている屋上庭園

# デジタル一眼レフカメラ入門 (その3)

誌上写真展

2016年9月6日(火)～7日(水)

デジタル一眼レフカメラの入門講座が鎌倉材木座の研修施設を拠点に開催されました。撮影テーマは、昨年引き続き「わたしの見つけた瞬間」です。

初日は講義の後、北鎌倉「建長寺」で撮影実習、研修施設に戻って講評、懇親会、2日目は「フラワーセンター大船植物園」で撮影実習の後講評という盛りだくさんの内容の研修でした。講師にお迎えしたのは、日本大学芸術学部写真学科講師の穴吹有希先生、お手伝いには同大学生徒の小田倉璃菜さん、代市千晶さん、福原歩さんが来てくれました。



穴吹先生の講義を聴く参加者のみなさん

また、参加者全員の写真をパネルにして、10月24日から11月2日まで、中目黒GTギャラリーにて作品展覧会を開催しました。

## 写真展「わたしの見つけた瞬間」vol.3



2016年  
10月24日(月)  
～  
11月2日(水)





六華苑の前で



## 第143回研修会 「ふるきよきもの伝承」 (その23)

2016年7月19日(火)~21日(木)

失われつつある  
日本の精神文化を求めて

### 創立40周年記念特別企画

# 偉人のふるさとを訪ねて (松代編)

今回は、幕末を駆け抜けた天才学者、佐久間象山の故郷である長野県松代町を訪れました。  
中山道を上り、長良川の鶴飼や桑名の六華苑にて雅楽鑑賞と伝統の技に触れる研修となりました。

一行がまず向かったのは、妻籠宿。五街道の一つであった中山道と飯田街道の分岐点に位置し、古くから交通の要所として栄えた宿場町です。  
1968年から全国に先立って町並みの保存が進められていたため、現在でも江戸時代の面影が色濃く残っているのが特徴です。町並み散策の後、戸倉上山田温泉へ投

#### 佐久間象山 コンパクト ガイド



#### 好奇心おう盛な 天才学者

自作のカメラで撮影された象山像  
1811~1864年

#### 神童の名をほいままにした幼少期

信濃松代藩主である真田家の右筆を務めた佐久間一学の長男として生まれた象山。ト伝流剣術の達人であった父の影響を受け、幼少期から剣や儒学を学ぶ。また、3歳のころには易経の64卦を習得し、周囲を驚かせるとともに「神童」として名を馳せる。

#### 傲慢な態度で多くの敵を作る

幼い頃から周囲に「神童」として褒められながら育ってきたこともあり、いつしか傲慢な態度が目立つように。そのため少年時代は喧嘩に明け暮れる毎日過ごす。「妻女山から槍がふる。佐久間の家から石が飛ぶ」とまで言われ、荒々しい気性だった。家老に無礼な態度をとって閉門を命じられたこともあったという。

#### 欧米人を彷彿とさせる特徴的な外見

当時の日本人としては長身かつ筋骨隆々だった象山。影りが深く、二重まぶたで眼がギラギラしていたことから、幼少期は「テッポウ(松代の方言で「フクロウ」)」と呼ばれていた。

#### 西洋の影響を受け研究に没頭

少々不遜な態度が目立っていたものの、勤勉な象山は藩主の真田幸貫から一目置かれる存在だった。

学習面では有力な後ろ盾を得た象山は、父の没後、江戸へ渡る。医学や地理学などの実学や技術を芸術という言葉で表現した「東洋道徳 西洋芸術」という思想的理念を持っていたため、列国に追いつこうと、近代洋式砲術をはじめ西洋のさまざまな学問を身に付けた。結果として象山が手がけた品は大砲や電磁石、カメラなど多岐にわたる。

#### 私塾を設け幕末の志士たちに多大な影響を与える

江戸に私塾を開き、砲術や兵学、科学、数学などを教えた。教え子には勝海舟や吉田松陰、坂本龍馬などがおり、幕末を代表する一流の武士たちに大きな影響を与えたと言える。



象山が藩費で購入した「ショメール百科事典」  
写真提供：象山記念館

#### 象山記念館

この記念館は象山没100年目にあたる1964年、象山の生家跡に建てられました。日本で初めて電信実験を行った象山が制作し

宿。名湯に浸かり、翌日からの研修に向けて英気を養いました。

た電信機や電気治療器などの機械を展示しています。



象山ゆかりの品を見学する参加者の皆さん



## 象山神社

豊かな緑に包まれた象山神社。松代藩の中級藩士・横田家の子孫で元大審院長であった横田秀雄が象山没後50周年を機に建立を呼びかけ、25年後の1938年に創建されました。

境内入口には愛馬に乗った象山像が建つほか、象山が仮住まいとしていた萬居の茶室である煙雨亭が移築されており、象山の軌跡を感じることができます。



愛馬に乗った象山像



松代藩鐘楼(電信発祥の地)

## 鵜飼

1300年以上の歴史を持つ鵜飼は宮内庁の保護のもと、日本古来の伝統漁法として現在まで受け

おいしい食事と鵜飼見学に満足な様子の皆さん



鵜飼について解説して下さった山下鵜匠

### 【鵜飼とは】

「鵜舟」と呼ばれる鵜飼専用の舟に10~20羽の鵜とともに鵜匠、供乗り(舵取り役)、中乗り(助手)が乗り込みます。舟首にかがり火(鵜飼用の照明)を付け、鮎を驚かせたところを鵜が仕留めるといった独特の方法で漁をします。鵜の喉には紐が巻かれており、完全に獲物を飲み込むことができません。鵜が捕まえた鮎は「鵜鮎」と呼ばれ、高級食材として扱われています。

継がれています。今回は宮内庁式部職鵜匠の山下純司さんに、鵜飼について解説していただきました。

十六夜の月に照らされた岐阜城のもと、二行は3艘に分かれて鵜飼見物へ。鵜匠・供乗り・中乗り、そして鵜の華麗なるチームプレーで鮎を捕らえる姿はまさに神業。その気迫あふれる姿に圧倒されながらも、一行はとれたての鮎の塩焼きをいただき、心もお腹も満たされた一日となりました。



鵜匠の見事な手縄さばきを間近で見学

## 多度大社

商売繁盛、雨乞いの神を祀っている桑名の多度大社。南北時代から行われている「上げ馬神事」が有名で、毎年全国各地から約十数万人の参詣者が訪れます。

### 【上げ馬神事とは】

毎年5月、周辺6区から選ばれた若者が騎手となって急勾配の坂を駆け上がり、その先に造られた2メートルほどの土の壁を乗り越える馬の数で、一年の吉凶を占う行事です。



中央の階段左の坂を馬が駆け上がる

## 六華苑

六華苑は大正二年、明治時代の豪商である二代目諸戸清六の邸宅として建てられました。木造2階建て天然スレート葺きの洋館は、鹿鳴館で知られるイギリス人建築家コンドルによって設計されたもの。その他にも和館や蔵、池泉回遊式庭園などがあり、和洋折衷の建物が印象的です。

細部まで計算された建物を見学した後、一行は六華苑のレストランを貸し切って開催した雅楽鑑賞へ。ここでは北野財団伝承研修で講師の経験がある、多度雅楽会の館主、田中松緑さんに案内していただきました。

### 【多度雅楽会とは】

館主の田中松緑さんは、多度大社の楽人(雅楽を奏する人)30年の経験をもとに、1300年前から歴史が始まり、代々桑名藩主が好んだ雅楽の伝統を守る活動をしています。



田中松緑さん

龍が戯れる様子を舞にした演目「茄曾利」



演目「胡蝶」は蝶が山吹の花の中を優美に舞う姿を表現





# 伝統



「伊達娘恋緋鹿子」  
写真提供：国立文楽劇場

# 文化「文楽」に親しむ

9月23日、めぐろパーシモンホールで「文楽」の入門講座が行われました。基礎知識の解説に加え「伊達娘恋緋鹿子」の火の見櫓の段の実演を通じて、参加者は楽しみながら文楽の知識を深めることができました。

## 日本が誇る古典芸能 「人形浄瑠璃文楽」

人形浄瑠璃文楽は江戸時代に大阪の地で生まれ、育まれた日本の古典芸能です。2003年にはユネスコの世界無形遺産にも登録されました。

文楽の主役は物語です。太夫の語る物語と三味線弾きの奏でる音楽、そして人形遣いの操る人形という三つの要素から一つの物語を完成させます。

物語には、大きく分けて「時代物」と「世話物」の二種類があります。「時代物」は公家や武士の物語で、「世話物」は、庶民が活躍するもので、笑い方などの表現が大きく違います。

## 一人で多様な人物を 語り分ける「太夫」

太夫の語りと三味線弾きの演奏をあ

わせて義太夫節といえます。義太夫節には、感情表現もさまざま。語り手である太夫は登場人物の声の高さや語る速さ、息づかいを変えることでそれぞれの人物を語り分けます。

## 舞台の雰囲気 形作る「三味線」

義太夫節において、三味線は太夫と対等な関係で競演し、太夫の語りを助ける存在です。登場人物が走ってくる場面を、男性なのか、女性なのか、あるいは一人なのか大勢なのかをさまざまに音で弾き分けるなど、太夫と絶妙のコンビネーションで物語を盛り上げます。

三味線は、日本を代表する弦楽器ですが、もともとは中国から渡ってきた。太棹、中棹、細棹の三種類がありますが、義太夫節で用いるのは、最も大型の太棹三味線です。

三味線は注目されることは少ないも

### 講師・実演

#### ■太夫

豊竹靖太夫さん

#### ■三味線

鶴澤清丈さん

鶴澤清允さん

#### ■人形

吉田簀紫郎さん

吉田玉翔さん

桐竹勘次郎さん

桐竹勘介さん

#### ■囃子

望月太明蔵社中さん



豊竹靖太夫



鶴澤清丈



吉田簀紫郎







人物を語り分ける豊竹靖太夫さん(左)と弾き分ける鶴澤清丈さん



実演 「伊達娘恋緋鹿子〜火の見櫓の段」

の、物語の雰囲気作りにおいて重要な役割を担っており、舞台を陰で支えています。

## 息を合わせて人形を操る三人の人形遣い

文楽人形は、首(かしら)、からくりが仕込まれている胴串(どぐし)、胴、手、足(主に男の人形)で構成されています。顔の化粧は貝をけずった粉を使用。首は木彫りで中がくり抜いてあり、胴串に仕組まれた、鯨のヒゲでできたバネで目や口を動かします。これにより、人形の表情や仕草で感情を表現しています。着物は人形遣いが自ら、「胴」という土台に着付けます。女の人形には基本的に足がなく、裾さばきによって足があるように見せています。

現在の文楽は、二人の人形を三人がかりで動かす「三人遣い」が基本です。文楽が始まった当初は、今の半分の大きさの人形を一人で操っていました。しかし近松門左衛門などの優れた劇作家が現れ、物語がより細かになるにつれ、繊細な演技ができるよう人形も大きく複雑になりました。そして、その大きな人形を操れるよう、人形遣いも三人となったのです。

三人遣いの役割分担は、「主遣い」が、左手で首の胴串を握って人形全体を支え、右手で人形の右手を操作。「左遣い」が右手で人形の左手を遣い、「足遣い」が両手で人形の両足を操ります。主遣いは、足遣いが動きやすいように舞台上下駄という下駄を履いて背を高くしています。

人形遣い同士は作品を演じる間、声を出してコミュニケーションをとることはありません。主遣いが人形の首や自身の腰の動きで合図を送ることで息を合わせています。

人形遣いは、基本的に黒衣ですが、主遣いに限っては、顔を見せて着付姿で人形を扱う「出遣い」があります。人形遣いの修業は、肉体的に最も負担の大きい足遣いから始まり、次いで左遣い、最後に主遣いとなり、芸を磨いていきます。

### 異例のカーテンコールサービス

「伊達娘恋緋鹿子〜火の見櫓の段」終演後には伝統芸能では通常行わないカーテンコールサービスがあり、出演者全員が登場しました。ホワイエでは人形二人による見送りもあり、入門講座は大盛況のまま幕を閉じました。



受講者による人形遣い体験の様子



満席の会場



## 研究助成金 対象者紹介



東京大学大学院教育学研究科  
博士課程 看護師保健師  
小塩 靖崇さん

当財団では、生涯教育という観点から調査・研究をしている方を支援するため、研究助成金制度を設けています。2014年に研究助成を受けられた小塩靖崇さんからの中間報告をご紹介します。

# 精神保健リテラシーが 健康の基盤をつくる

の好発年齢が始まる思春期の子どもへの精神疾患に関する知識向上のための教育(精神保健リテラシー教育)が求められている。ちなみに精神保健リテラシーとは、「精神疾患への気付と対処、予防を助ける知識」である。海外先進国では、学校で実施する精神保健リテラシー教育プログラムが開発されてきたが、その多くは「実施に長時間を要し」学校外の専門家が実施するもので、時間等の余裕に乏しいわが国の学校では活用しにくい。そこで、我々は、わが国の学校でも活用できるプログラム開発を行った。

の改善とともに、適切な人に相談することも重要であることを理解させる。中学生には、「早期発見のために知っておくべき症状」として、思春期に起りやすい症状(気分落ち込みや意欲低下、イライラ、身体症状(頭痛腹痛)、睡眠食欲の変化)を教える。また、「友達に相談された時の対応」も学習させる。

プログラムは「短時間」かつ「教師が実施する」として。小学生には45分1回、中学生には50分2回で実施する。アニメ教材を使って、以下のポイントを学ばせる。精神疾患は、(1)誰にでも起きる(2)生活習慣も影響する(3)一人で抱え込まず早めに相談することが大事である、ことである。(1)は、身体と同様に心にも病気があること、思春期は身体と精神の両面で変化が著しく不調も起きやすいこと、約5人に1人が精神疾患にかかる可能性があることを教え、精神疾患が自分にも無関係でないことを理解させる。(2)は、子どもに身近な睡眠習慣(夜更かしや睡眠不足を扱う)。(3)は、精神疾患が回復可能で、早期発見が回復に重要であることを理解させる。次に、対処として生活習慣

### プログラム作成

「精神疾患の予防早期発見のための学校で実施可能な精神保健リテラシー教育プログラムの開発」というテーマで助成を頂いている。本稿では、作成したプログラムの紹介をさせて頂く。

### はじめに

### 研究背景

精神疾患対策は喫緊の課題であるが、対策を進める上で社会が抱える問題の一つに、知識不足がある。「早期発見と適切な対処で多くが回復可能で、予防も可能であること」等、精神疾患に関する知識はほとんどの人で不十分である。子どもでは「身体と同様に心にも病気がある」ことすら知らない場合も珍しくない。このような知識不足は、必要な対処の遅れを招き、症状の重篤化や自殺等の予後不良にもつながる。この課題解決に向け、精神疾患

### プログラム効果

全国約70校でプログラムを実施し、効果検証を行った。授業前後・3ヶ月後の質問紙調査から「精神疾患の知識」、「援助希求行動と他者への援助行動に対する態度」の変化を調べた。プログラム実施後、知識向上と援助希求行動及び他者への援助行動に対する態度の改善がみられ、その効果は実施3ヶ月後も維持されていた。

### プログラム改訂のための検討

「精神保健の観点から推奨される睡眠時間」の根拠を得るための研究を行った。具体的には、子どものうつや不安のリスクを小さくするには、どの程度の睡眠時間が必要か、中高生約2万人のデータを解析した。その結果、うつや不安を有する割合は、夜間睡眠時間が、男子は8・5～9・5時間、女子は7・5～8・5時間の場合に最も小さかった。より詳しい解析では、男子は中学で8・8時間、高校で8・5時間、女子は中学で8・0時間、高校で

### 今後の課題

7・5時間の場合にそのリスクが最小であった。この研究では、子どもに推奨する睡眠時間(中学生とも平均で8時間かそれ以上)を提示することができた。

第一に、学校・地域特性に合ったプログラム作成に役立つ、学校地域の特徴を考慮した検証が必要である。第二に、教師や保護者の精神保健リテラシー向上が必要である。子どもの健康行動は周囲の大人からも影響を受けるが、教師や保護者への教育とそれによる子どもへの効果は検討していない。子どもだけでなく周囲の大人にも効果が得られるような学校へのプログラム導入モデル検討が必要である。

### 終わりに

健康に関する正しい知識は、適切な健康行動を築く基盤であり、これは身体でも心でも同じである。しかし、ほとんどの子ども(大人でも)は、精神疾患の具体的な兆候や症状、予防や対処について考えたこともない。精神疾患は身近な病気であるにも関わらず、「精神疾患」をニュースで初めて知る人も少なくない。精神保健リテラシーが、健康な生活を営むために必要な知識として、学校教育に位置づけられることを期待している。

※本プログラムに関心のある方は  
ojiotokyo@gmail.comまでご連絡ください



# 第1回 インドネシア ポリネス大学奨学金授与式開催

長年検討してきたインドネシアの大学に対する奨学金が、今年、やっと実現の運びとなりました。インドネシアでは、経済発展の中、大学への進学は増えているものの経済的には厳しい状態であることから、当財団は、奨学金を毎年、ポリネス大学の学生20名に授与することにしました。

ポリネス大学は、ジャカルタから約500km東の中央ジャワにある、ジャワ海に面した静かな田舎町といった風情のスマランという町の国立工業系大学です。

奨学金授与式は、8月30日、ポリネス大学の入学式当日に行われ、約600名の新生も同席しました。初めに、学長のSupuriyadiさんが挨拶。次に、北野財団の市橋常務理事が、「勉学に励み、インドネ

シアの発展に寄与し日本との友好関係も深めましょう」と挨拶。引き続き、インドネシアスタンレーの若林社長が挨拶しました。

学生一人ひとりに奨学金の証書が手渡された後、関係者全員で記念撮影。新生からの温かい拍手に送られて、無事終了となりました。なお、授与式の様子は、現地の新聞にも掲載されました。



証書授与。左から1人おいてポリネス大学学長、若林社長、市橋常務理事



新入生のみなさん



奨学生とともに記念写真

## 北野財団創立40周年記念

### 中目黒公園彫刻贈呈式開催

北野財団は、31年間にわたって若き彫刻家を応援する彫刻奨学金を実施してきました。創立40周年を記念して、直近10年間の彫刻奨学生に呼びかけ、中目黒公園に設置する作品のコンペティションを実施、厳正な審査の結果選ばれたのは、多摩美術大学助手 松井雅世さんの作品「雨をつかむ」です。

この度、作品設置が完了し、9月28日に青木目黒区長はじめ関係者が集って、目黒区への贈呈式が開催されました。作者の松井さんは次のように語っています。

「公園で過ごす一時は、楽しくてきらきらしていて、目には見えない

けれど、貴重な時間。この一瞬をいつまでも覚えておきたいけれど、覚えておけない。このような想いは、空から降る雨を手のひらでは受け止めきれないという事象と似ているように思えました。手のひらからこぼれ落ちる雨と、次第に消えていってしまう記憶が重なり、目に見えないものを掴み取ろうとする手の形態に辿り着きました。実際の手ではなく、手の影をイメージしたのは、変化し続ける影とその時間の一瞬を切り取りたかったからです。思い出がたくさん生まれる公園に、雨と記憶を受け止められるような作品を残したいと考えました。」



作品の前にて  
左から市橋常務理事、北野専務理事、松井さん、青木目黒区長、桜田みどりと公園課長



設置作品「雨をつかむ」作者 松井雅世さん  
写真 目黒区提供



## ご報告



### 第38回懸賞論文 「私の『先生』」誰からも、何からも学べる」入賞者が決定

今年も恒例の懸賞論文が行われました。今回のテーマは「私の『先生』」誰からも、何からも学べる。厳正な審査の結果、入賞者は左記の方々に決まりました。

賞	作品名	氏名	居住地
1席	共に暮し、共に学ぶ	感王寺 美智子	宮城県
2席	二人三脚の紐が解けるまで —共に学び育み合った日々—	江角 岳志	東京都
	義父の人生から学んだ事	國西 嘉代子	愛媛県
	死に逝く者の学びから得たこと	三上 香子	大阪府
3席	心こそ大切なれ	阿部 広海	静岡県
	文通	大西 賢	東京都
	フォーカル・ジストニアという困難を乗り越えてみて	滝 和子	神奈川県
	神様と王様の番号	堀 宗一郎	大阪府
	祖母の独りごと	森 千恵子	福岡県
佳作	学びは心の中で生き続ける	金城 美智子	沖縄県
	スーパーヒーローになったら	熊谷 真紀	宮城県
	本に育てられた人生	齋藤 恒義	兵庫県
	「音楽」が教えてくれたこと	坂本 美香子	千葉県
	学ぶこと、出会うこと	白石 通武	愛知県
	牧野先生の背中	新屋 和花	東京都
	畑から学んだこと	谷口 幸子	広島県
	私を教師にしてくれた生徒たち	福田 恵	徳島県
	我が人生最大の師	武藤 敏子	福島県
	「学び」は生活の中にある	村山 洋子	愛媛県

### 東日本大震災鎮魂 コンサート vol.4 結団式開催

当財団が主催する「東日本大震災コンサート vol.4」(2017年3月11日実施)に際し、公募合唱団「フォーレのレクイエムを学び歌う会」の結団式が2016年10月4日中目黒GTプラザホールで開催されました。

合唱メンバー70名出席のもと、合唱指導の荒牧小百合先生、竹内雅幸先生、ピアノ伴奏の石井綾先生と矢野里奈先生の紹介の後、聖徳大学および文教大学講師の松平敬先生が、「現代音楽は楽しい!」と題して講演されました。

荒牧先生からは、「同じ曲目でも、毎回異なったテーマを掲げて半年間練習し最高のコンサートになるよう指導していくので、みなさんついてきてほしい」と参加者に向けて力強い挨拶がありました。



講演する松平敬先生

### 声楽家を 東北の小学校へ派遣

当財団は、生の迫力ある歌声をまじかで聞くことができる機会を与えようと、プロの声楽家を小中学校へ派遣しています。

今回の東北への派遣先は、福島県いわき市立好間小学校、平第四小学校、宮城県気仙沼市立水梨小学校、大島中学校の4校でした。声楽家が螺旋階段から登場したり、生徒たちが直接歌いかけるなどの演出があり大いに盛り上がりました。声楽家にお礼の気持ちを込めて歌った生徒の合唱は、プロの指導を少し受けただけで素晴らしい歌声に変わりました。



福島県いわき市立平第四小学校で歌う青山 貴さん

### メディアアーティストによるワークショップ開催

今期は、メディアアーティストの橋本典久さんによる「手書きでどろき盤とデジタルカメラでプラクシノスコップを作る」のワークショップをいわき市立夏井小学校と気仙沼市立鹿折中学校で開催しました。

また、「マンガをカラーシユして新しいストーリーを作ろう」のワークショップを横浜市立生麦中学校で開催しました。



橋本講師とおどろき盤を手に持ついわき市立夏井小学校のみなさん



# お知らせ



## 歴史研修(その8)

### 越後の城めぐり

鮭が遡上する三面川を見下ろす臥牛山にある平山城の村上城・三尾の鯨が屋根にあがる御三階櫓を有する新発田城、上杉謙信が青年時代を過ごした栃尾城をめぐります。

### 日程

2017年4月11日(火)～12日(水)

### 講師

静岡大学名誉教授 小和田哲男氏

### 定員

40名



新発田城

## 表紙ギャラリー

当財団の使命は、一生学び続ける人を応援することです。学ぶ人が、今日よりも明日、一歩でもよくなるよう努力するには、目標が必要だと思います。そこで、世のため、人のために偉業を成し遂げた偉人を目標に掲げたいと考え、財団機関誌の表紙に登場いただくことにしました。

### 佐久間象山 (1811～1864)

佐久間象山の人となりや業績については、本文に掲載されていますので、ご参照いただければと思います。

勝海舟は、象山の塾に入塾し子弟関係を結んではいらぬものの、海舟の妹、お順を象山が正妻に迎えていることから、義兄弟の関係にもありました。勝は、象山が揮毫した扁額「海舟書屋」を大変気に入って貰い受け、以降海舟という号にしたということです。

松平定信の息子である松代藩藩主真田幸貫に目をかけられた象山が、老中になった幸貫に国防の要として「海防八策」を上

申したことからも、いかに海軍を重視していたことがわかります。勝は、象山の志を受け継いで、日本の海軍創設に大きく関わったのです。



写真提供：真田宝物館

## 第44期 主要行事のご案内

- 2016年
    - 10月 ペトナム(国立農業大学) 奨学金授与式
    - 11月 理事會・評議員會
    - 研究助成金授与式
    - 懸賞論文入賞者表彰式
    - 論文集『私の先生―誰からも、何からも学べる―』 発行
    - 中国(広東工業大学) 奨学金授与式
    - 彫刻奨学生作品展
  - 2017年
    - 3月 中国(南開大学・天津大学) 奨学金授与式
    - 6月 「ミランダナオ子ども図書館」 大学生奨学金授与式 ライフプランセミナー
    - 5月 科目等履修生および放送大学生(選科履修生・大学院修士全科生)の奨学生選考會
    - 4月 歴史研修「越後の城めぐり」 研究助成金公募 洋上研修公募
    - 9月 「ツシカメ入門」 美術研修(島根) ペトナム(スンサ高校、(経理・経済大学) 奨学金授与式 「ミランダナオ子ども図書館」 保育所開所式
    - 8月 インドネシア奨学金授与式
    - 7月 伝統文化「歌舞伎」入門講座 鎮魂コンサート 懸賞論文公募 科目等履修奨学生および放送大学大学院 修士全科奨学生 奨学金授与式および成果発表會 美術研修(宇都宮)
    - 7月 研究助成金選考委員會 懸賞論文審査委員會 伝承研修 「偉人のふるさとシリーズ」 福沢諭吉他
- ※講師等の都合により、スケジュール等変更の場合もあります。

### 設立目的

当財団は、スタンレー電気株式会社創業の北野隆春の私財提供により、生涯教育の振興をはかる目的で1975年6月23日、文部省(現文部科学省)の認可を得て発足しました。当財団は、いつでもどこでもだれでも学べる体制をつくり、学ぼうとする方々に対し、より豊かな生きがいを持つよう、時代が求める諸事業を展開してまいります。

## 生涯教育だより 第112号

2016年11月10日発行  
 編集人 市橋 淳平  
 発行人 北野 重子  
 発行所 公益財団法人 北野生涯教育振興会  
 〒153-0053 東京都目黒区五本木1丁目12番16号  
 電話 東京 03(3711)1111

## こ・ち・ら・編 集 室

日本初の女性報道写真家笹本恒子さん(一〇二歳)が、「真界のアカデミー賞」といわれる米国の「ルーシー賞」を受賞したというニュースを目にし、喝采の声をあげました。笹本さんは、戦前、日独伊三国同盟の婦人祝賀會など開戦前夜の日本を記録。戦後は、三井三池炭鉱の労働争議や六十年安保闘争などを取材し、歴史の節目をカメラに収めてきました。長いフランクを経て、七十一歳で現役に復帰し、日本の文化活動に著しく貢献した人に贈られる「吉川英治文化賞」を受賞したり、「笹本恒子一〇〇歳展」を全国で開催するなど活躍中です。

また、いつもチャーミングな装いをしている笹本さんは、一〇〇歳の時に、ベストドレッサー賞を受賞。「ファッショ」は、お金ではなく頭をつかうもの」というのがポリシーで、ほとんどの洋服は、手作りです。

ところで、笹本さんの「毎日ノート」についてご紹介しておきたいと思えます。無印良品の普通のノートには、取材したい人や興味ある出来事のスクラップ、料理番組で気に入ったレシピ、新しく覚えた英会話のフレーズなど、彼女の好奇心のリーダーが捉えたあらゆるものが、毎日収められています。

このノートを読み返すことで、ひらめきを得ることがしばしばあるとか、まさに生涯学習のお手本のような笹本さんにあやかるよう、みなさんも「毎日ノート」をつくってみませんか？





税理士  
公益財団法人 公益法人協会 相談室 専門委員 税理士

## 柴田 美千代さん

SHIBATA MICHIO

# 明るい未来をつくる生涯教育 これからも魅力的な事業を 展開して行ってください。

1994年から、当財団の決算書作成のご指導をいただいている税理士の柴田美千代さん。長年のお付き合いの中でお感じになっている財団の事業の印象や生涯教育についてのお考えをお聞きしました。



—柴田さんが税理士になられたきっかけは何ですか。

大学では英文学を専攻していたので、英語を使う仕事がしたいと考え、新卒で就職したのは総合商社です。6年働きましたが、英語はツールに過ぎないので、何か得意分野を持ちたいという思いが募って、商社を辞めて会計の勉強を始めました。簿記の資格を順番に取っていたのですが、生活に密着した税金に興味を湧き、趣味の延長のような感じで、4年間かけて資格を取得しました。資格取得後に就職したのが、北野財団の顧問をしていた出塚会計事務所で、そのご縁が続いています。

—普段はどのようなお仕事をされていますか。

企業の法人税や消費税の申告や各種税金の税務相談、決算書作成などのお手伝いをしています。また、月に一度、公益法人協会で会計・税務の相談員をしています。さまざまな公益法人から会計基準や税務に関する問い合わせがあり、相談に応じています。専門知識を生かすことで、少しでも皆さんの手助けが出来ること、そして喜んでいただけることにやりがいを感じています。私自身も多くの公益法人の事例を学ぶことができ、勉強になっています。

—北野財団の事業について、どのような印象をお持ちですか。

事業数が非常に多く、ジャンルも多岐にわたっていることに驚きます。昨今のほとんどの公益法人は、現状維持が精一杯で、このようなペースで事業数が増えている法人は珍しいですね。少人数の事務局で、企画から段取り、運営までやっていたらしゃること、本当に感心します。きっと財団の母体となる企業の風土がよく、働きやすい雰囲気だからではないでしょうか。

最近の例では、今年の3月に行われた創

立40周年記念公演「ヤマタノオロチ」が印象に残っています。オペラ作品が良いことはもちろん、舞台の演出が凝っていて感動しました。また、音楽奨学金や彫刻奨学金の取り組みもよいですね。日本は、海外に比べると情操教育に助成することが少ないので、ぜひ続けていただきたいと思います。さらに、日本のみならず、フィリピンのミンダナオ島にあるミンダナオ子ども図書館への支援など、海外にも事業を広げている。今の世の中は、勉強できる環境とできない環境に二極化しています。スタート地点があつて、はじめて勉強できると

思いますので、ぜひ、途上国の子どもたちにも勉強ができる環境を提供して欲しいと思います。同時に日本では、何歳になっても学び続けることのできる環境を支援して行ってください。

生涯教育というテーマは、未来があつて明るく、魅力的だと思えます。生活が豊かになり、生き甲斐を感じることもできます。北野財団の雰囲気がいとも明るいのは、そうしたテーマを扱っているからかもしれませぬ。

—最近、興味があることは何ですか。

食の安全に興味があつて、食に関する勉強や仕事をしてみたいと思うほどです。便利さと引き換えに、食の安全が疎かにされることがあつてはならないと感じる今日この頃です。北野財団の定款にも「この法人は、生涯教育の振興を図るための事業を行い、もって健康で豊かな知識と情操を有する人材の育成に資することを目的とする」とあります。健康でなければ、勉強もできません。その健康に直結する食はとても大事なことだと思います。

—余暇はどのようにお過ごしですか。

以前は、ゴルフが好きで月1〜2回のペースでゴルフ場に通っていましたが、最近、めっきりその回数も少なくなり、昨年の夏からは、週に2〜3回プールに通って泳いでいます。1年間継続したところ、体力がついて、肩こりもなくなって良い事ばかり。最近ではフォームも気になって、動画サイトで勉強しています。

—最後に、読者にメッセージをお願いします。

私の好きな言葉に「一期一会」という言葉があります。生涯に一度の機会というように、毎日の日常のひと時、ひと時を大切に、毎日を大事に過ごしていくことだと思います。北野財団のもとに集い、生涯教育に賛同する者同士、出合いは一期一会です。この機会を常に大切にしていきたいです。飾らないお人柄で、ニコニコしながらご自身のことをお話いただき、楽しい時間を過ごさせていただきました。税務の窓口として、これからも北野財団のみならず、たくさんの公益法人のご指導をよろしく願っています。



北野財団の総会にて